設計課題 「景勝地に建つ土間スペースのある週末住宅(木造2階建て)」

1. 設計条件

ある地方都市の景勝地(西側に美しい山並みが見える)において、夫婦の趣味である木工 芸品の製作を通じて、地元の人々との交流を深めることのできる、土間スペースのある週 末住宅を計画する。 計画に当たっては、次の①~⑤に特に留意する。

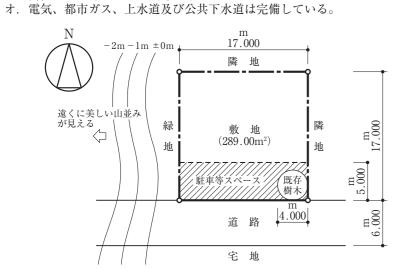
- ①土間スペースは、木工芸品のギャラリーやワークショップ及び地元住民との交流を深めるためのスペースとし、西側の美しい山並みが一望できる計画とする。また、展望 テラスと隣接させ、直接行き来できる計画とする。
- ②道路から玄関へのアプローチは、母及び地元住民(高齢者)に配慮して、玄関ポーチま で屋外スロープを計画する。
- ③1階の居間・食事室・台所からは、敷地内の既存樹木が眺められる計画とする。 ④床高等については、下表のとおりとする。

1階部分の各要求室(玄関の土間部分、土間スペースを除く)の床高(地盤面からの高さ)	500mm
玄関の土間部分、玄関ポーチの地盤面からの高さ	150mm
土間スペース及び展望テラスの地盤面からの高さ	150mm

⑤建築物の耐震性を確保する。

(1) 敷 地

- ア. 形状、道路との関係、方位等は、図のとおりである。
- イ. 用途地域その他の指定はない。 ウ. 建ペい率の限度は60%、容積率の限度は200%である。
- エ. 地形は西下がりに傾斜しているが、当該敷地及び接している道路及び他の隣地とは
- 高低差はなく、地盤は良好である。



(注) 1. 斜線部分は駐車、通路、植栽等のスペースとし、建築 物は計画してはならない。

2. 既存樹木(枝張り4.0m)は、現在の位置に保存するも のとし、この部分には建築物は計画してはならない。

敷地図(縮尺:1/500)

(2) 構造、階数及び建築物の高さ ア. 木造2階建とする。

イ. 建築物の最高の高さは10m以下、かつ、軒の高さは7m以下とする。

(3) 延べ面積

必ず「160㎡以上、200㎡以下」とする。

(床面積については、ピロティ、玄関ポーチ、展望テラス、屋外スロープ、駐車スペー ス等は算入しないものとする。)

(4) 家族構成

母(70歳代)、夫婦(40歳代)、子ども2人(小学生)

(5)要求室

		必ず指定された設置階に計画する。				
設置階	室 名	特 記 事 項	床 面 積			
	支 関土間スペース	・下足入れを設ける。 ア. 玄関から直接行き来できるようにする。 イ. 上部には2階を設けてはならない。 ウ. 木工芸品の展示のための陳列棚(幅2,000mm× 奥行300mm以上)を3台設ける。 エ. 暖炉(幅700mm×奥行400mm)を1台設ける。(ただし、壁の遮熱や煙突等は考慮しなくてよい) オ. 木工芸品の製作を行うアトリエスペース(9 ㎡以上)を設け、可動間仕切り壁により独立した室としても使用できるようにする。 カ. アトリエスペースには、テーブル及び椅子(計4席)、流し台(幅は適宜)を設ける。	適 宜 26㎡以上 (アトリエス・ ースを含む)			
1 階	倉 庫	ア. 土間スペースにおいて使用する陶芸の材料、 道具等を保管する。 イ. 土間スペースに隣接させる。	適宜			
	居間·食事室·台所	ア. 1室にまとめる。 イ. 食事室には、テーブル及び椅子(計 5 席以上) を設ける。	適宜			
	母の寝室	ア. 和室とし、広さは、心々3,640mm×3,640mm以上とする。イ. 別に押入れ及び床の間を設ける。	8畳以上 (押入れ及び) の間を除く)			
	便 所 (1)洗面脱衣室(1)浴 室 (1)	・母の使用に配慮し、広さは、心々1,365mm×1,820mm以上とする。・主に母が使用する。	適宜			
2	子ども室	ア. 子ども 2 人が使用する。 イ. 洋室とし、ベッド(2台)、収納を設ける。 ウ. 将来的に 2室に分けて使用できるように可動 間仕切りを設ける。				
階	夫婦寝室 便所(2) 洗面脱衣室(2) 浴室(2)	・洋室とし、ベッド(計2台)、ウォークインクロゼット(4 m以上)を設ける。	適宜			
適宜	納戸		4 ㎡以上			
JP. H.		(注)母の移動に配慮して、1階の要求室の出入口は全て引戸又は引違い戸とする。				

(6) 屋

展望テラス	ア. 土間スペースに隣接させ、建築物内から支障なく直接行き来でき
	るようにする。
	イ. 西側の美しい山並みの眺望に配慮する。
	ウ. 10㎡以上とし、まとまったスペースとする。
	エ. 転落防止に配慮し、手すりを設ける。
屋外スロープ	ア. 勾配は1/12以下、有効幅員は1,200mm以上とし、踊り場を設ける
	場合は、踏幅1,500mm以上とする。
	イ.スロープの下端と上端には、奥行1,500mm以上の平場を設ける。
	なお、上端の平場は玄関ポーチと兼用してもよい。
	ウ、安全に配慮し、手すりを設ける。

2. 要

(6) 屋外施設等		
屋外に下表のものを計画する。		
展望テラス ア. 土間スペースに隣接させ、建築物内から支障なく直接行き来でき		
るようにする。 イ. 西側の美しい山並みの眺望に配慮する。		
ウ. 10㎡以上とし、まとまったスペースとする。 エ. 転落防止に配慮し、手すりを設ける。		
屋外スロープ ア. 勾配は1/12以下、有効幅員は1,200mm以上とし、踊り場を設ける		
場合は、踏幅1,500mm以上とする。 イ. スロープの下端と上端には、奥行1,500mm以上の平場を設ける。		
なお、上端の平場は玄関ポーチと兼用してもよい。		
ウ. 安全に配慮し、手すりを設ける。 駐車スペース ・1台分(母の乗降に配慮し、幅3.5m以上とする。)を設ける。		
航半人ペース 「Tロガ(母の米件に癿態し、幅JJIII以上とする。)を成りる。		
2. 要求図書		
2. 女 水 臼 盲 a. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する(寸法線は、枠外にはみだして		
記入してもよい)。		
b. 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規を用いなくてもよい)。 c. 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(部分詳細図(断面)		
にあっては、10mm)である。		
d. シックハウス対策のための機械換気設備等は、記入しなくてよいものとする。 要求図書		
()内は縮尺 おおり サーダー		
(1) 1 階平面図 ア. 1 階平面図兼配置図及び 2 階平面図には、次のものを記入する。 兼 ・ 建築物の主要なせ注		
配置図 二年本初の上女なり仏		
(1/100) - 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」には△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう(以下		
(2) 2 階平		
・側面区の労働位直及い方向		
イ. 1階平面図兼配置図には、次のものを記入する。 ・敷地境界線と建築物との距離		
・道路から建築物へのアプローチ、展望テラス、屋外スロープ、駐		
車スペース、門、塀、植栽等 ・道路から敷地及び建築物への出入口には、▲印を付ける。		
・展望テラス及び屋外スロープには、手すり(1点鎖線にて明記する。)・部分詳細図(断面)の切断位置及び方向		
・居間・食事室・台所、母の寝室、土間スペース、玄関ポーチ、玄		
関の土間、展望テラスに地盤面からの高さ ・玄関…下足入れ		
・居間・食事室・台所…テーブル、椅子、台所設備機器(流し台・		
調理台・コンロ台、冷蔵庫等) ・土間スペース…陳列棚、暖炉、可動間仕切り(1点鎖線にて明記す		
る。)、アトリエスペースにはテーブル、いす、流し台 ・便所(1)…洋式便器、手洗い器		
・洗面脱衣室(1)…洗面台、洗濯機		
・浴室(1)…浴槽 ウ. 2階平面図には、次のものを記入する。		
・1階の屋根伏図(平家部分がある場合)		
・夫婦寝室…ベッド ・子ども室…ベッド、可動間仕切り(1点鎖線にて明記する。)		
・ 便所 (2) · · 洋式便器		
・洗面脱衣室(2)…洗面台、洗濯機 ・浴室(2)…浴槽		
(3) 2 階床伏図 ア. 主要部材(通し柱、1 階及び 2 階の管柱、胴差、2 階床梁、桁、		
兼 小屋梁、火打梁、棟木、母屋、小屋東など必要なもの)については、 1階小屋伏図 凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法(小屋東を除く。)		
(1/100) を凡例欄に記入する。ただし、主要部材のうち、平角材又は丸太		
材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。な お、根太及び垂木については、記入しなくてよい。		
イ. 2階床伏図において、火打梁の代わりに、構造用面材による床組とする場合には、胴差、床梁、桁を記入したうえで構造用合板の		
厚さ、釘の種類・打付け間隔を明記する。		
ウ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に明記する。 エ. 建築物の主要な寸法を記入する。		
(4)立 面 図 ア. 南側立面図とする。		
(1/100) イ. 建築物の最高の高さを記入する。 ウ. 展望テラス及び屋外スロープについては、外観で見える場合に記		
入する。ただし、手すりについては、記入しなくてよい。		
(1/100) 部を含む部分とする。		
イ. 建築物の外形、床面及び天井面の形状がわかる程度のものとし、 構造部材(梁、基礎等)については、記入しなくてよい。		
ウ. 建築物の最高の高さ、軒高、階高、天井高、1階床高、開口部の 内法寸法及び主要な室名等を記入する。		
(6)部分詳細図(断面) ア. 切断位置は、土間スペースの外壁を含む部分とする。		
(1/20) イ. 作図の範囲は、基礎及び床の部分(床の仕上面からの高さ1,000mm 以上)とし、外壁の柱心から1,000mm以上とする。		
ウ. 主要部の寸法等を記入する。		
エ. 主要部材(基礎、土台等必要なもの)の名称・断面寸法を記入する。 オ. アンカーボルト等の名称・寸法を記入する。		
カ. 床下換気口(又は、これに代わるもの)の位置・名称を記入する。 キ. 外気に接する部分(外壁、床、その他必要と思われる部分)の断熱・		
防湿措置を記入する。		
ク. 主要な部位(外壁、内壁、床)の仕上材料名を記入する。 (7)面 積 表 ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を記入する。		
イ. 建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ. 計算結果は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。		
(8)仕 上 表 ア. 主要な屋根の勾配を記入する。		
イ. 外部の主要な部位(屋根、外壁)の仕上材料名及び下地材料名を記 入する。		
ウ. 内部(居間・食事室・台所)の主要な部位(天井、内壁、床)の仕上		
材料名及び下地材料名を記入する。 (9)計画の要点等 ・建築物及び敷地の計画に関する次の①~③について、具体的に記述		
する。		
①建築物の配置計画について、工夫した点 ②土間スペースの計画について、工夫した点	会員番	受
③西側の山並みの眺望に配慮して、工夫した点	· 景 名 名	受 験 地

(目盛4.55mm)